

総務常任委員会報告書

議 長	事務局長	次 長	書 記
			

会 議 日 時	令和2年7月14日(火) 午前9時30分 ～ 午前11時40分			
会 議 場 所	○議員控室 ☒ 委員会室 ○議会図書室 ○その他()			
出 席 者 数	委員6名のうち出席者4名			
出 席 委 員	委 員 長	古谷 幹夫	委 員	田邊 哲夫
	副委員長	水間 淳一	委 員	堀本 伸一
	委 員	吉村 アツ子	委 員	下元 昇
説 明 者	企 画 課	課 長 山本康雄	四万十川振興室	室長 中井智之
傍 聴 者				
付 議 事 件	① 請願継続審査について			
	② 文化的施設基本計画について			
	③ その他			
審 査 ・ 調 査	① 請願継続審査について			
	山本企画課長、中井室長出席のもと、下記の資料(風力発電に係る超低周波音・騒音の健康影響に関するもの)を基に室長を中心に説明を受ける。			
	ア.「風力発電施設による超低周波音・騒音の健康影響」:石竹達也(久留米大医学部環境医学講座)―日本衛生学会誌 73、298-304(2018)			
	イ.「風力発電施設から発生する騒音等に対する取組について」:環境省水・大気環境局大気環境課大気生活環境室			
	ウ.「風力発電アセスに係る参考項目の見直しについて」:経済産業省産業保安グループ電力安全課			
	エ.「風力発電施設における騒音及び超低周波音について」:日本大学 町田信夫(秋田県再エネ海域利用法に基づく協議会)			
	以上の資料の概略説明を受けてから質疑応答を含めて議論する。			
	○堀本委員:今どのような状況で進んでいるのか			
	○中井室長:昨年末から2年間かけての風況等調査に入っている。			
	○田邊委員:超低周波音の影響は無視できない。自分は今回計画の風力発電は必要ないと考える立場だ。町、町民にとってメリットがあるのか。住民の理解をどう進めていくか。いつこの請願に対する結論を出すのか。			
	○委員長より、町・町議会より説明会開催の要望を伝えている経過を説明			
	○下元委員:説明会の開催は申し込んでいる。会社としては四万十町がノーと言			

	った場合どう対応するか確認したい。
	○山本課長:オリックスとしては環境調査をした後に説明をしたいという意向だ。
	○堀本委員:健康被害についてはしっかり考える必要がある。議会にとってこの計画を止め切れるかどうかの判断が必要。風力発電が本町に必要なかどうかの視点から判断する事が重要。健康被害、エネルギーのあり方等を考慮して慎重な結論を出す必要がある。
	○水間委員:超低周波音の健康被害については、本計画に反対の立場に立つ方から提供された資料、本日提供された環境省等の資料によりどう判断すべきか迷っている。
	○吉村委員:原発でなく再生エネルギーへの移行は好ましい事だが、超低周波音の健康被害については判断の難しい課題だ。残り少ない委員の任期中に答えを出すことに難しさを感じる。
	□6月11日の常任委員会で意見集約していた件について
	1. 9月定例会に本請願に対する結論を出すことを目処とする
	→ 本日の意見も参考にして8月の常任委員会に臨む
	2. 四万十町の考え方を確認する
	→ 特段進展はないとのことで担当課による本日の低周波音等の検討となる
	3. 四万十市の対応を確認する
	→ 四万十市議会ではこれまで2名の議員から本計画に関しての質問が っていること。市としては前向きに進めている状況で視察研修の必要は ないとの判断を冒頭に伝える。
	4. 5. 津野町風力発電施設及び須崎市新電力会社については8月に研修依頼を 局長を通じ打診してもらっている旨を確認し、本案件の協議を終了。
	② 文化的施設基本計画について
	⇒委員町より「四万十町文化的施設基本計画」概要版を読み上げた後意見交換
	○田邊委員:計画書は素晴らしいものだが、毎年400人近い人口減少、交付 税の縮小等を考慮すると、15億円もかけた施設が本当に必要かおおいに疑 問だ。ランニングコストをどう負担していくか大きな問題を抱えている。
	○下元委員:一議員の立場では、15億円もかけた施設は人口減少等も考慮し、 今後継続的な運営が可能か心配。町長も当初は5億円程度の図書館をと言っ ていた経過がある。跡地の活用も全く検討されていない状況は怠慢と言わざるを

	得ない。5億円程度で図書館単独でそれ以上は必要ない考える。		
	○吉村委員：人口減少傾向の中でそれほど大きな施設は必要ないというのが多くの町民の声だ。現状の図書館の利用率を基本に検討すべきだと思う。		
	○堀本委員：図書館、美術館の必要性は理解する。ランニングコストもしっかりと捉え冷静な判断が必要。予算を抑えてセンスの良い、本町に見合ったものとすべき。このままの計画では凍結も視野において考える必要がある。		
	以上のような意見が出されたが意見集約は行わず。		
	なお水間委員は葬儀の為本案件の協議をには参加せず。		
	③ その他		
	○本日午後の文化的施設の議員勉強会に続き8月24日にも2回目の勉強会が計画されていることを伝え、同日午前中の総務常任委員会を開催することを確認した。		
	～11時30分過ぎ散会		
反対意見			
報告日	令和2年7月27日(月)	委員長署名	古谷 幹夫 